門



# 福岡県遊技業協同組合

「第13回こども絵画コンクール」 事業



福岡県遊技業協同組合 理事長 平岡聖教さん

#### 選考理由

「このマグカップの絵、僕が描いたんだよ!」「カレンダー今月は私の絵よ!」こんな子どもたちの喜びの声が聞こえてきます。例年開催していた「こども絵画コンクール」の表彰式をコロナ禍のため取りやめ、作品でカレンダーを制作し、さらにマグカップに転写して個人賞にして贈呈、という温かい企画でした。保護者と一緒に生活できない子どもたちにとっては一生の宝物です。またWEB作品展により話題は温かく広がり、子どもたちの健やかな未来を願う当組合の活

動は広く認識を深めました。

社会貢献活動審査委員会 委員 脇田直枝氏



## 児童養護施設で 生活する子どもたちの 絵画コンクールを 10年以上も継続開催

# 社会的養護の対象である子どもたちが描いた絵を募集して実施される絵画展

日本には今、親の病気や経済的困窮、虐待などの理由により、親と一緒に暮らせない子どもたちが約45,000人いる(2017年、厚生労働省調べ)。そうした子どもたちは、「社会的養護」の対象とされている。

社会的養護とは、保護者のいない子どもや、様々な理由で親と暮らせない子どもたちを、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱えている家庭への支援を行うことで、「子どもの最善の利益のために」、「社会全体で子どもを育む」を理念として行われている。社会的養護にある子どもたちは、一般的には、日本各地にある児童養護施設、乳児院などの施設、あるいは里親のもとやファミリーホーム(養育者の住居において家庭養護を行う)などで生活している。

福岡県遊技業協同組合(以下、福遊協)で社会貢献活動などを担う青年部会では、社会貢献事業の一環として、 県内にある児童養護施設で生活する小中学生を対象に、 毎回テーマを決めて作品を募集する「こども絵画コンクール」 を2008年から毎年、実施している。この事業は、様々な事情で保護者と一緒に生活できない子どもたちの健やかな成長と限りない未来に寄与することを目的とし、絵画を通じて子どもたちの創造力や表現力、感性を育むだけでなく、コンクールを通じて一つの作品を努力して完成させることの喜びを感じてほしいとの願いが込められている。

#### ■第13回こども絵画コンクール作品展 https://www.kodomo-kaiga.com/frmDefault.aspx



Webサイトで公開されている第13回こども絵画コンクール作品展



応募作品がプリントされたカレンダーとマグカップ

### コロナ禍の厳しい状況にありながら 316の応募作があった2020年の絵画展

第13回目の開催となった2020年のコンクールでは、現在、世界的な課題として様々な分野で取り組みが行われているSDGs(エスディージーズ:持続的な開発目標)にも通じるような「未来の地球 | がテーマとして設定された。

約2ヵ月間の募集期間が設けられ、県内にある19の児 童養護施設から子どもたちが一生懸命に描いた316作品 の応募があった。10月初旬に審査会(組合、青年部会、 絵画有識者ら14名で構成)が開催され、応募作のなかか ら、入賞作として個人賞36作品、施設賞5施設が選出さ れた。

例年であれば、福岡市天神にある福岡市役所1階の多目的ホールで作品展を開催していたのだが、2020年は新型コロナウイルス感染症を防止するため、web作品展として開催することにし、12月末から福遊協のホームページ上にバナーを載せ、それを経由して、入賞作品はもとより、応募作品すべてを自由に鑑賞できるようにした。また、コロナ禍のため、例年行っていた表彰式を中止とし、参加賞として贈られていた屋外レジャー施設のチケットも各自の応募作品がプリントされたマグカップとカレンダーに変更し、各施設にお菓子とともに配られた。施設からは、「自分が描いた絵入りのマグカップをとても喜び、帰省の際に親に見せるのを楽しみにしている子どももいる」といったお礼の手紙が届いているという。

毎年、年度当初に企画・立案し、10ヵ月をかけて実施している事業だが、主催する青年部会では、「描かれた応募作品を通じて、こども絵画コンクールの活動が子どもたちに年々、浸透していることが肌で感じられ、今後ともこの活動を継続して、より一層、内容の充実を図っていきたい」と話している。